

令和6年第3回定例会 保健福祉医療委員会資料

【諸般の報告】

- | | | | |
|---|--|-------|---|
| 1 | A Y A世代がん患者支援に向けた取組について（中央病院） | | 2 |
| 2 | 質の高い医療の提供に向けた取組について（病院機能評価の受審）
（こころの医療センター） | | 3 |
| 3 | 看護師の確保に向けた取組について（こども病院） | | 4 |
| 4 | 県立3病院の令和5年度決算概況について | | 5 |

令和6年9月19日
病 院 局

1 AYA 世代がん患者支援に向けた取組について（中央病院）

AYA 世代（Adolescent & Young Adult：15～39 歳の思春期・若年成人）のがん患者は、悩みを共有したり相談する場が少ないことから、がん罹患が学業や就労、家事・育児・介護、恋人・友人などの人間関係、長期的な健康管理などといった日常生活やライフプランに特に大きな影響を与える傾向がある。

中央病院のがん相談支援センターでは、AYA 世代のがん患者を支援することを目的として、AYA 世代のがん患者支援の活動を強化するとともに、患者交流会や講演会等を開催しており、今後も引き続き、AYA 世代がん患者の相談支援体制の充実強化を図っていく。

(1) 主な活動内容

①がん診療連携協議会相談支援部会 AYA 支援ワーキンググループの開催 (R6. 7. 30)

県内医療機関の支援体制の充実・強化を図るため、県内のがん診療連携拠点病院等を対象としたワーキンググループを定期的で開催している。7 月 30 日開催のワーキンググループでは、AYA 世代がん患者支援の取組内容や課題等について共有するとともに、メンバー間で意見交換等を行った。

- ・ 主な議題：各医療機関における AYA 世代支援の取組状況、AYA 世代のがん診療等
- ・ 参加者：がん診療連携拠点病院等 19 機関 27 名

②AYA 世代がん患者交流会「AYA Park」の開催 (R6. 9. 1)

患者が抱える生きづらさや悩みを互いに共有し、つながる場と学びの場を提供するため、AYA 世代のがん経験者を対象とした交流会をはじめ開催した。

- ・ 参加者：AYA 世代がん経験者 2 名
- ・ 参加者の主な感想
 - 同世代で同じ悩みを持つ人と交流ができてよかった。
 - オンライン開催なので距離を気にせず気軽に参加できた。



AYA 世代がん患者交流会ポスター

③がん診療連携機能強化事業講演会の開催 (R6. 9. 27)

AYA 世代がん患者の診療体制の充実を図るため、県内のがん診療に携わる医療従事者等を対象とした講演会を開催する。

- ・ テーマ：「アピアランスケアの本質を理解し、明日からの相談対応に活かそう！」
- ・ 講師：国立がん研究センター中央病院
アピアランス支援センター長 藤間 勝子先生
- ・ 参加者：がん医療従事者等 100 名 (予定)

(2) 昨年度までの主な取組実績

開催日	内容	参加者数
R5. 3. 30	AYA 世代のがん相談支援立ち上げに関する WG の開催	3 機関 9 名
R5. 9. 4	AYA 世代のがん相談支援立ち上げに関する WG の開催	14 機関 31 名
R5. 11. 14	がん診療連携機能強化事業講演会 (テーマ：「AYA 世代がん患者をチームで支える」、講師：静岡県がんセンター 石田裕二先生・糸賀利栄先生) の開催	13 機関 53 名

2 質の高い医療の提供に向けた取組について（病院機能評価の受審）（こころの医療センター）

こころの医療センターでは、今年度、質の高い医療の提供を目標に掲げ、組織全体の運営管理及び提供する医療について、公益財団法人日本医療機能評価機構[※]の中立的・科学的・専門的な見地からの評価を受け、病院の質向上を進めていく。

当病院機能評価の受審により、病院の現状や問題点が客観的な視点から明らかになり、病院の更なる改善活動の推進、運営体制の一層の充実や医療の質の向上を図ることが期待できる。

この受審や取組の発信により、こころの医療センターのPRに繋げていくとともに、明らかになった課題の改善に取り組むことで、質の高い医療の提供に努めていく。

※公益財団法人日本医療機能評価機構

国民の健康と福祉の向上に寄与することを目的とし、中立的・科学的な第三者機関として医療の質の向上と信頼できる医療の確保に関する事業を行う公益財団法人（平成7年7月27日設立）。

（1）病院機能評価の概要

「患者中心の医療の推進」、「良質な医療の実践」、「理念達成に向けた組織運営」の領域ごとに設けられた評価項目について、項目ごとにS、A、B、Cの4段階の評価を受けるもの。

（2）評価項目

評価領域	主な評価項目
患者中心の医療の推進	患者の意思を尊重した医療、 患者の安全確保に向けた取り組み
良質な医療の実践1	診療・ケアにおける質と安全の確保、 チーム医療による診察・ケアの実践
良質な医療の実践2	良質な医療を構成する機能（薬剤管理機能、臨床検査機能、 栄養管理機能、リハビリテーション機能等）
理念達成に向けた組織運営	病院組織の運営、病院の危機管理

（3）スケジュール

	R6年度							R7年度						
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
機構模擬評価	→						→					→		
改善点検討			→					→		→				
改善案策定・改良				→					→		→			
改善に向けた取組								→						
審査														→

（4）これまでの受審医療機関数（令和6年7月25日現在）

区分	受審医療機関数	
	全体	うち主たる機能が 精神科である医療機関
全国	2,070	162
茨城県	35	2

出典：公益財団法人日本医療機能評価機構HP

3 看護師の確保に向けた取組について（こども病院）

こども病院では、看護師の確保に向けて、看護大学・看護専門学校等の学生を対象として、看護師業務の紹介や職場見学等の実習を継続的に実施し、小児医療のやりがいや魅力をPRしているほか、中学・高校生を対象として、職場体験の実施や、保護者との懇談により生徒が将来看護師を目指すきっかけづくりも行っている。

このような取組により、平成28年度から毎年募集人数を上回る応募があり、必要な看護師数を確保することができており、今後も引き続き、看護師の確保に取り組んでいく。

(1) 主な取組

①看護大学・看護専門学校の学生に対する病院での講義及び実習

病院に学生を受け入れ、看護師が講義を実施するとともに、臨床指導の看護師による助言のもと、外来や病棟での看護業務の見学や実習を行っている。

【R5】看護大学4校248名、看護専門学校5校135名

②看護大学・看護専門学校等への講師派遣

看護師が大学や看護専門学校等の講師を務め、専門的な知識や技術、小児看護の魅力を伝えている。

【R5】筑波大学、県立医療大学、茨城キリスト教大学、県立中央看護専門学校、宮本看護専門学校 等

③就職説明会

説明会参加者に対し、小児看護の説明や院内見学のほか、勤務体制や休暇制度、給与体系などの説明を行っている。

【R5】全8回開催 参加者計136名

④職場体験イベント「ふれあい看護」の開催

中学・高校生を対象として、小児看護の説明や院内見学、聴診・血圧測定など実際に機器を使用した職場体験を実施している。また、看護師になるための進学や就職について、保護者との懇談を行っている。

【R5】中学・高校生35名、保護者6名

(2) 看護師採用実績

	R3年度 (R4採用)	R4年度 (R5採用)	R5年度 (R6採用)	R6年度 (R7採用)
募集数	20名程度	20名程度	20名程度	15名程度
応募数	32名	26名	41名	25名
採用数	20名	21名	23名	15名予定



(就職説明会の様子)

4 県立3病院の令和5年度決算概況について

(1) 令和5年度決算の概況

【収益的収支】

3病院合計で3億35百万円の純損失を計上。

(主な要因は新型コロナウイルス感染症患者受入病床確保補助金29億5百万円の減)

<3病院の状況>

・中央病院 → 純利益を計上 4百万円

R4 : 14億29百万円 → R5 : 4百万円 (前年度比△14億25百万円)

・こころの医療センター → 純損失を計上 1億1百万円

R4 : △2億83百万円 → R5 : △1億1百万円 (前年度比+1億82百万円)

・こども病院 → 純損失を計上 2億38百万円

R4 : 4億11百万円 → R5 : △2億38百万円 (前年度比△6億49百万円)

(3病院ともに主な要因は新型コロナウイルス感染症患者受入に伴う病床確保補助金の減)

(2) 一般会計繰入金

退職給与金に要する経費に係る繰入等の減により、前年度比3億5百万円減額し、総額51億34百万円

(3) 主な収支改善方策

○中央病院

- ・がん診療機能の更なる強化のため、ニーズの高いICUを含む高度急性期病床を増床し、複雑で高度な医療を必要とする患者に対応できる体制を強化していく(R6.12～)。
- ・地域の医療機関との機能分化・連携強化を図り、病診連携・病病連携を推進し、入院患者の受入確保を図っていく。

○こころの医療センター

- ・病棟ごとに患者受入の目標を設定し、病院長管理のもと、地域の医療機関との連携強化などの取組によって、入院収益の増加を図っていく。
- ・一般外来や、デイケア、訪問看護についても目標を設定し、収益を確保していく。

○こども病院

- ・病床を有効活用するため、リハビリ入院やアレルギー検査入院、在宅調整入院などに新たに対応し、病床利用率の向上を図っていく。
- ・各種診療料の加算取得による収益増加や、診療材料など材料費の抑制による経費節減を図っていく。

【参考1】収支状況（前年度比較）

（単位：百万円）

	中央病院		こころの医療センター		こども病院			3病院合計	
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R5 (参考) ※2	R4	R5
(1) 収益的収支	1,429	4	△283	△101	411	△238	△238	1,557	△335
収益的収入	21,244	19,076	3,689	3,750	1,426	1,342	5,863	26,359	24,168
医業収益	15,229	15,910	2,649	2,811	40	42	4,433	17,918	18,763
病床確保補助金	2,753	183	71	30	373	79	79	3,197	292
収益的支出	19,815	19,072	3,972	3,851	1,015	1,580	6,101	24,802	24,503
医業費用	18,832	18,157	3,810	3,698	924	1,506	6,028	23,566	23,361
(2) 資本的収支	△667	△616	△124	△97	△272	△180	△180	△1,063	△893
(3) 資金収支(※1)	1,384	△482	△274	△75	224	△296	△296	1,334	△853

※1：非資金（減価償却費や引当金等の実際の資金の増減を伴わないもの）を除く収益的収支と資本的収支を連結したキャッシュベースでの収支。

※2：病院全体の状況を表すため、県及び指定管理者の数値を合算したもの。

【参考2】繰入金（前年度比較）

（単位：百万円）

	中央病院		こころの医療センター		こども病院		本庁		合計	
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5
医療分(※3)	2,521	2,314	1,083	1,043	1,279	1,189	5	28	4,888	4,574
精・彰・粉(※4)	413	422	71	71	67	67	-	-	551	560
合計	2,934	2,736	1,154	1,114	1,346	1,256	5	28	5,439	5,134
増減		△198		△40		△90		23		△305

※3：救急医療、精神、小児など政策医療の提供に要する経費、建物等の償還金のうち国の繰出基準に該当する経費、病院局設置前の一般会計在職期間等に係る退職給与金などに対する繰入金。

※4：研修医の指導医人件費など、医療人材の教育や研修に要する経費に対する繰入金。